

## 研究タイトル：音読・要約を核にしたシステム英語指導法の提案—名人教師の知見をもとにして



氏名： 安木真一 / YASUGI Shinichi E-mail: yasugi@tsuyama-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 修士(TE SOL)

所属学会・協会： 全国英語教育学会, 関西英語教育学会, 英語授業研究学会, 外国語教育メディア学会

キーワード： 音読, 要約, 名人教師, 英語指導法

技術相談

提供可能技術：

- ・英語授業における音読指導の方法
- ・音読指導・要約指導を核にした4技能統合型指導法
- ・中高の授業改善
- ・英語の学習方法

### 研究内容： 音読・要約を核にしたシステム英語指導の方法の提案

本研究で明らかにされるのは現場の教師が授業で使用できる「音読と要約指導を核にした指導法」のモデルである。このモデルを補完するための動機付けの方法も提示する。音読に関しては名人のインタビュー結果と音読に関する実証データを比較し、更に筆者が実践することで指導に関するモデル作成はほぼ終了している。この成果は安木(2010)で発表し、現時点で11刷りとなり現場の教師の圧倒的サポートを得た。音読に関する検証で残るのは「再生能力と英語力の相関」である。読まれた英文をどの程度(音節数)まで再生できるかということと、英語力の相関について検証ができれば、音読により英文の記憶の長さを伸ばしていくことで、英語力が向上することが実証される。要約指導に関しては、英語による要約指導が望ましいのか、日本語による要約指導が望ましいかを検証する。名人へのインタビューでは両方がみられた。コミュニケーションという観点では英語による要約が望ましいが、大学入試には日本語による要約の指導が圧倒的に多い。両者を比較しその意義を検証する。更に閉本での要約が望ましいか、開本が望ましいかも検証する。同時に音読とリンクした要約指導法を作るために、音読後の要約の方法並びに効果について実証的に調べる。動機付けに関してはあくまで指導モデルを補完するものであるが、名人へのインタビュー、大学入学後の大学生へのアンケート、名人の生徒へのインタビューの3者を比較することで仮説を生成し、筆者の実践の中で試してみたい。

受験指導とコミュニケーション能力の両立に関する報告は近年散見されるようになった。現場の教員は新指導要領に対応すべく、受験指導とコミュニケーション能力を両立すべく奮闘し、中には実践報告を記している者もある。しかしいずれの報告も、応用言語学や英語教育学の先行研究の実証データに基づくものではない。本研究の特徴はコミュニケーション能力と受験に対応する力を両方とも育成している高校教師の教授方略、授業観・学習観を検証するという質的な研究を行うと同時に、そこからでてきた知見と、英語教育学や応用言語学の実証データ、更に独自に行う実証データを比較し、その有効性を実証した上で、高等学校のみならず、中学校、高等専門学校、短期大学、大学の教室で使用できる、新たな英語授業のモデルを提供することにある。質的な研究を量的な研究と適合させて、授業モデルをつくり現場に還元するという点で斬新なアイデアを有していると判断できる。

従来の現場の教師の実践では、自分の経験値や、他の実践を模倣する事が多かった。バックボーンに英語教育学の知見や実証データがないため、実践をしても自信を持って実施することができず、更に新しい実践を模索することを継続することになる。本研究に基づく実践の場合は、名人技を実証研究と比較し更に検証する中で方法を提示するため、各現場教師がよりよい授業をできる可能性が高くなる。名人教師の技から抽出された技を科学的に分析し、音読や要約に関する実証研究と比較することで更に中高大、高専の英語教育で使用できる更によりよいモデルを提供できると考える。

#### 参考文献

安木真一.(2010).『英語力がぐんぐん身につく！驚異の音読指導法54』明治図書

#### 提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	